

東庄町自転車活用推進計画（概要版）

1. 計画策定の背景と目的

国では、自転車の活用による環境負荷の低減、災害時における交通機能の維持、国民の健康増進等を図ることなど新たな課題に対応するため、交通の安全の確保を図りつつ、自転車の利用を増進し、交通における自動車への依存の程度を低減することによって、公共の利益の増進に資すること等を基本理念とする「自転車活用推進法」を平成29年5月に施行し、さらに平成30年6月に「自転車活用推進計画」が閣議決定されました。

東庄町におきましても、多くの住民が近隣への移動や通勤等、自動車を主な移動手段として使用していますが、自転車利用の環境整備が遅れているため、通学や高齢者の移動における安全確保が課題となっています。

少子高齢化が進む東庄町では、水と緑に恵まれた自然環境が住民の大きな財産となっており、環境負荷の軽減、健康増進、交通安全環境の向上、観光振興等の好影響を創出する自転車を活用したまちづくりを推進することを目的として「東庄町自転車活用推進計画」を策定しました。

2. 東庄町における自転車に関する現状と課題

① 町民の日常生活の重要な足として安全で快適な走行環境の改善

- ◇ 町内の道路は、自転車の明確な走行空間が確保されておらず、全体的に幅員が狭く、安心して自転車を利用することが難しい状況にあります。
- ◇ 高齢者、子供を含め、自転車の事故が多発しており特に通学の足として活用されている中学生や高校生の安全確保が課題となっています。

② 積極的な自転車利用による生活習慣病の改善や健康の維持

- ◇ 自動車に頼らざるを得ない環境の中で、運動不足による生活習慣病の見直し、精神面の健康改善が必要となっています。

③ サイクリング環境の改善による、観光交流人口の増加及び観光振興

- ◇ 少子高齢化が進む中で、新しい人の流れの創出や産業振興のためには、自転車による観光交流人口の増加が必要であり、自転車を活用した観光地域づくりやサイクリスト向けのサービスの充実が望まれます。

④ 災害時の情報収集手段、新たな町民の避難手段としての自転車の活用

- ◇ 災害時の被災状況の迅速な把握、住民避難の移動手段として自転車の活用が県でも推進されています。

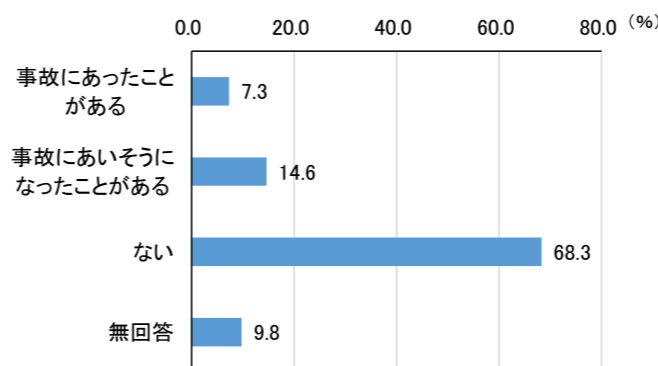
⑤ 町の豊かな自然環境が保全され、次代へつなぐ持続可能な自転車を活用したまちづくり

- ◇ 恵まれた自然環境を保全しながら、環境負荷を軽減する交通手段として自転車が見直されており、コロナ禍における新たな生活習慣の見直しの中でも自転車の重要性が見直されています。

■ 町民アンケートから得られた町民の安全に対する意見

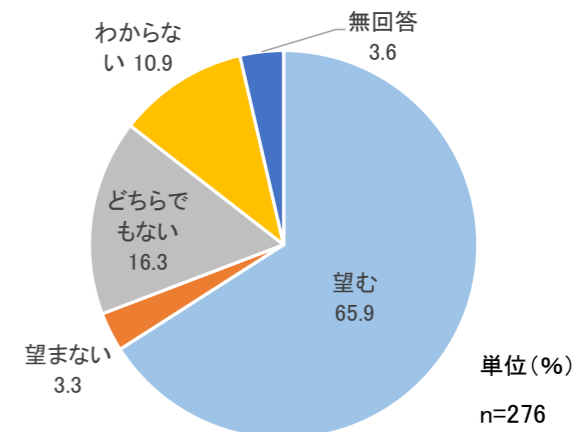
【通学時の事故の経験】

通学時に事故にあった学生が3人、事故にあいそうになった学生が6人います。



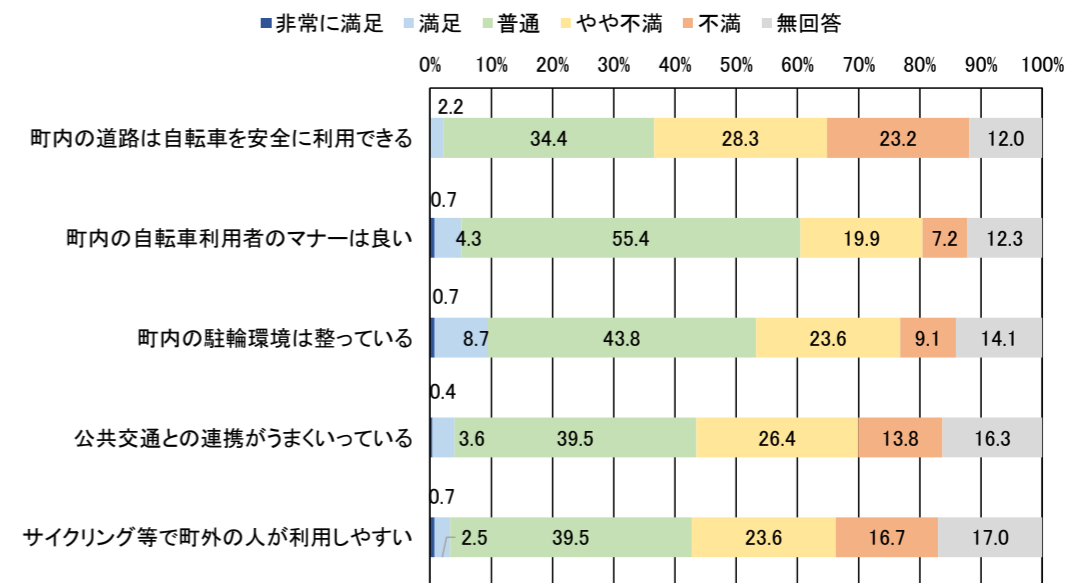
【安全で快適に自転車利用ができる町になることを望みますか】

東庄町が安全で快適に自転車利用ができる町になることを望む声が65.9%と多くなっています。



【自転車利用環境の満足状況】

町民は、自転車利用環境に対して、不満を感じる人が多く、特に「自転車の安全利用」、「町外の人の利用しやすさ」、「公共交通との連携」に対する不満の割合が高くなっています。



【東庄町において自転車活用を推進するための検討課題】

- ① 通学や健康づくり、買物等で自転車が利用されているが、町内道路の安全に対する満足度が低い
- ② 中高生の自転車通学時に事故等の経験者が存在しており、安全性の確保が急務である
- ③ 町の北部市街地に自転車利用時に非常に危険な場所が多く指摘されている
- ④ 自転車利用のルール・マナー向上には学校での安全教育の実施が望まれている
- ⑤ 町民は自転車を安全で快適に利用できる環境及び施策を望んでいる



3. 具体的な取り組み

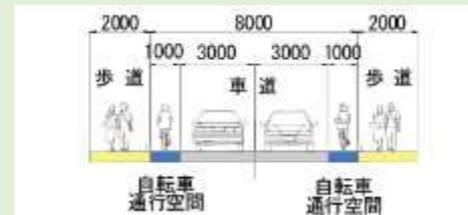
基本方針Ⅰ 道路整備による連続的な自転車走行空間の確保

自転車ネットワーク計画に基づき、安全で快適な自転車走行空間の整備を進めます。

目標1 計画的な自転車走行、駐輪空間の整備促進

施策1 自転車ネットワーク路線の整備

施策2 自転車駐輪場の再整備、管理



自転車通行空間整備例

目標2 自転車走行空間と関連した施策の推進

施策1 自転車案内、誘導サイン等の整備

施策2 ゾーン30等の生活道路の速度抑制や進入抑制の導入検討



ゾーン30規制標示例



サイクルラック設置例

施策に係るSDGs目標



基本方針Ⅱ 事故等の危険要因の把握とその対応策の明確化及び情報提供

通学時や町民が指摘する事故危険箇所を明確にし、対策や情報提供を進めます。

目標1 危険箇所を共有する仕組みづくり

施策1 通学路、危険箇所の安全点検

施策2 危険箇所の町のホームページ等での情報提供

目標2 交通安全意識向上の推進

施策1 学校での自転車安全利用教育の実施



通学路安全マップ作成例



注意喚起のチラシ例

施策に係るSDGs目標



基本方針Ⅲ 自転車利用促進による持続可能なやさしいまちづくり

健康増進、環境負荷低減などへの効果の啓発を行い、自転車の活用を図ります。

目標1 日常生活における自転車活用の促進

施策1 日常生活やレジャー等における自転車利用促進PR

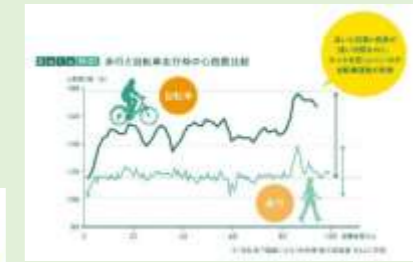
施策2 自転車を活用した健康づくり機会の創出

目標2 災害時における自転車活用の推進

施策1 災害時の自転車活用方法の検討



施策に係るSDGs目標



自転車利用による各種効果例

基本方針Ⅳ 交流人口拡大に向けた自転車利用環境づくり

サイクリスト向けの環境整備を進め、町の観光振興を推進します。

目標1 町内サイクリングコースの充実

施策1 大規模サイクリング道路と町内サイクリングコースの接続

施策2 サイクリングコースの案内、誘導サイン等の整備

目標2 サイクリングによる地域振興の推進

施策1 手軽にサイクリングを楽しむ環境の整備

施策2 地域資源を活用したサイクリングツアー、イベント等の開催



施策に係るSDGs目標



サイクリングを活用したイベント実施例

東庄町自転車ネットワーク計画（概要版）

4. 自転車ネットワーク路線の整備方針

①町の北部市街地の自転車ネットワーク路線



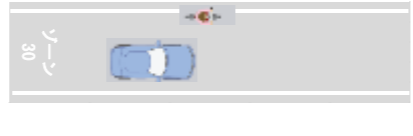
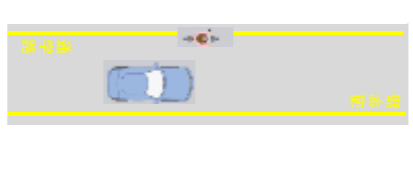
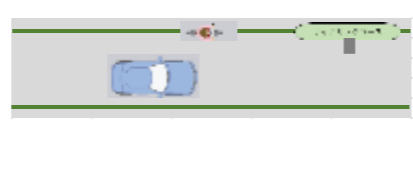
◇北部市街地内に立地する公共施設や商業施設を自転車で安全に利用できる空間を連続的に整備する。

②東庄中学校の自転車通学の安全を考慮した自転車ネットワーク路線

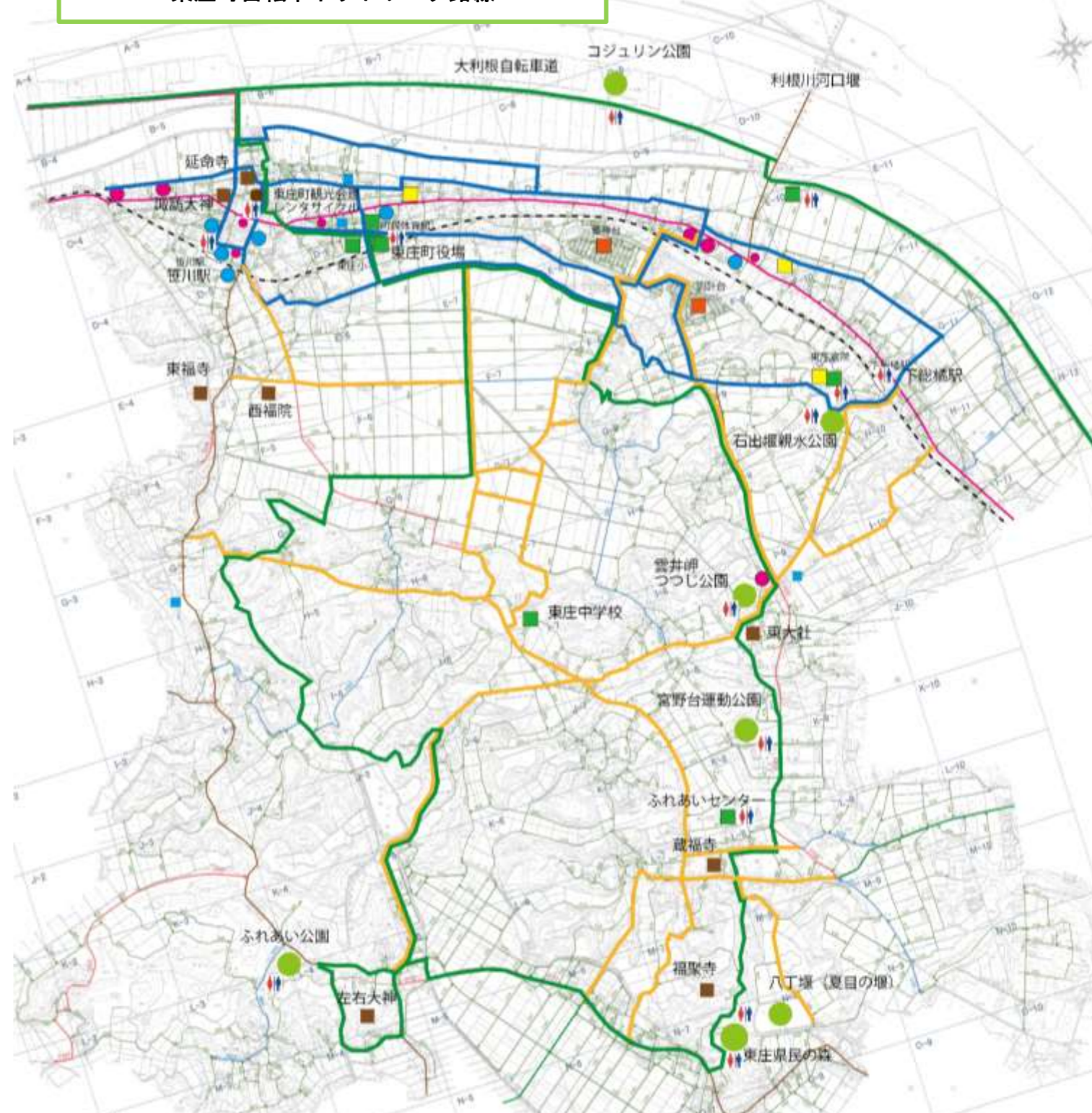
◇東庄中学校の自転車通学路を明確化することにより、生徒が安全に通学できる空間を連続的に整備する。

③町外からのサイクリストを快く迎える自転車ネットワーク路線

◇広域的な大利根自転車道と町のサイクリングコースの連絡性を高め、安全でわかりやすい連続的な自転車通行空間を整備する。

整備タイプ	整備イメージ
①	<ul style="list-style-type: none"> 通行空間を1.0m以上確保 路肩に一定の幅員を確保 矢羽根型路面表示 自転車のピクトグラム設置 
②	<ul style="list-style-type: none"> 通行空間が1.0m未満 必要に応じて自転車の通行位置を表示 矢羽根型路面表示 自転車のピクトグラム設置 
③	<ul style="list-style-type: none"> 北部市街地の細街路 自動車の速度を抑制する規制 ゾーン30による面的な規制 その他、一方通行規制、大型車規制など 
④	<ul style="list-style-type: none"> 周辺部の通学路 通学路で、自転車通学の生徒が利用していることを周知 主要区間の路側線のカラー化 通学路の路面表示 
⑤	<ul style="list-style-type: none"> サイクリングコース 町外からのサイクリストにもわかる案内表示、表示板の設置 主要区間の路側線のカラー化 危険箇所や分岐部等の案内板等の設置 

東庄町自転車ネットワーク路線



凡例

- 町の北部市街地の自転車ネットワークの形成
- 自転車通学の安全を考慮した自転車ネットワークの形成
- 町外からのサイクリストを快く迎える自転車ネットワークの形成